

大照院は、1656 年に創立された臨済宗の寺院である。長州藩藩主であった毛利一族の菩提寺の一つになっている。

毛利一族は萩に移した際の家長であった毛利秀就（1595-1651）を称えるために大照院を建てた。「昭穆葬」という中国様式の墓地では、奇数と偶数の世代の墓の分離を義務付けている。偶数代の毛利の藩主とその家族は大照院に葬られている。600 基以上の石燈籠が忠誠を誓う家臣や人々によって寄進された。初代藩主である毛利秀就の墓は萩城から移され、残りの奇数代の藩主は、萩の別の場所にある毛利一族の菩提寺である東光寺に葬られている。

大照院の本堂は「重要文化財」である。寺院は多くの遺物の保存ができるように修復されており、簡素でありながらもはっきりとした禅寺の建築様式を保っている。